

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 6 年 6 月 4 日現在

機関番号：12601

研究種目：基盤研究(B)（一般）

研究期間：2021～2023

課題番号：21H00487

研究課題名（和文）形象の記述・記録についての比較美術史学的研究

研究課題名（英文）Comparative Art Historical Studies on Image Descriptions and Documentations

研究代表者

秋山 聡 (AKIYAMA, Akira)

東京大学・大学院人文社会系研究科（文学部）・教授

研究者番号：50293113

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 13,300,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は形象の記述について探求する上で、形象の範囲を造形物に限定せずに、自然物はもちろん、自然物と造形物から合成されたともいえる聖地景観、さらには夢や幻といった非物質的イメージにまで拡大し、また、記述の範疇を言語による記述だけでなく、造形や画像や記号による記述までに広げて、多角的視点から比較美術史的に検討し、多くの新知見を得た。また、そうした成果を反映させたいわば自己参照的な各時代、地域の美術作品の記述を試験的に試み、一定の成果を得た。これまでにない多様な視点からの我々の記述研究にはさらなる国際展開の可能性が期待される。

研究成果の学術的意義や社会的意義

造形物の言語による記述についての研究関心は我が国では比較的薄いところがあり、文化的背景の相違によるところもあるが、西欧においては、形象の記述は、文化の基層を構成してきており、比較文化的な相違が浮かび上がったことは、形象と記述の範疇を広く設定した研究方法とともに、今後のイメージと言語の相関性についての研究の進展に資するであろう。聖地形象についても、言語記述と造形記述を突き合わせた研究はまだまだ多くなく、今後の新たな方向性の展開を促すことになる。また、造形物や聖地景観についての記述に関わる知見の充実や絵解きを包含した記述研究は、地域における文化振興や観光に一定の寄与をすることも期待される。

研究成果の概要（英文）：Rather than limiting the scope of images, to figurative objects, we expand the range of images to include not only natural objects, but also sacred landscapes that can be said to be synthesized from natural objects and objects, and even non-material images such as dreams and visions. We also expanded the scope to include not only verbal descriptions but also descriptions using images and signs, and examined the description of images in a broader sense from a multifaceted perspective in terms of comparative art history, and obtained many new findings. In addition, we have attempted to create self-referential descriptions of artworks from each period and region that reflect these results, and have achieved certain results. Our research on description from an unprecedented variety of perspectives would have the potential for further international expansion.

研究分野：美術史学

キーワード：美術史 記述 造形物 聖地 聖地景観 比較美術史 参詣図

## 様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

美術史学においては、「記述」は極めて重要な基本的研究方法であり、とりわけ欧米では見ることと記述することがほとんど同義とされてきた。研究代表者はドイツ留学中に、虚構と事実が混在するというエクフラシスについての研究に接したことから、そうした記述行為についての淵源・展開と、文化間格差等に興味を抱いた。その後、エクフラシスについての研究状況の紹介や美術鑑賞教育における記述の実践等を試みる中で、美術史学における記述行為をより広い文化史的脈絡で把握することを考えるに至った。また、記述の対象を造形物・美術作品に限定するのではなく、比較例として聖地景観や自然物、あるいは夢・幻等についての記述をも視野に入れること、また、W.ケンプの「プラクティカルな記述」という概念を取り入れ、言語による記述だけではなく、画中画や複製画、絵地図等、造形・画像による記述をも範疇に入れて考察することが、記述の有する文化的広がりを理解する上でより有用であると考えられるようになった。

### 2. 研究の目的

美術史学においては方法論としての「記述」には極力客観性が求められてきたためもあり、歴史史料における記述を扱う際にも厳格に捉えられてきた観がある。しかし、古代以来の諸史料における記述には、虚構や創作、創造と事実が混在していることが少なからずあり、こうした史料を美術史学はなお十分には活用してきていない。また、美術史学において「記述」と言った場合、主として言語による記述を意味してきたが、歴史史料の中には数値や図、画像、立体模型等による多様な「記述」が含まれている。そうした専ら「記録」に分類されがちな史料にも虚構や創作が混入していることは珍しくない。本研究においては、造形物のみならず景観や自然物、夢や幻視等を含む広い意味での形象を対象とした、言語のみならず造形・画像等による多様な記述について博捜し、記述行為の多様性ならびに歴史的展開や地域的特性を浮かび上がらせる。従来別々に行われてきた言語記述の研究と造形による記述の研究を統合的に止揚することにより、新たな観点からの国際比較が可能となり、個別研究の相対化にもつながることが期待される。

### 3. 研究の方法

研究代表者と4名の研究分担者に適宜研究協力者の参画を得て、日本美術史班、東洋美術史班、西洋美術史班、比較美術史班を構成し、  
、  
、  
がそれぞれの地域に関わる研究を展開し、  
に情報を提供するかたちで研究を進めた。

### 4. 研究成果

日本美術史班では、増記が、まず、形象の記術・記録についての比較美術史、という観点を  
得て、仏教絵画、特に11から12世紀の日本および中国におけるそれらについて、日本においては実際の作品に残された技法や修理の痕跡を作品の来歴を語る雄弁な「記録」として研究の俎上に載せる試みを重ねた。また中国においては『歴代名画記』に代表されるように唐代以来多くの作品記述が残されてきたが、作品自体が残されていないという状況がある。これらの作品記述の蓄積を先に述べた「記録」と重ね合わせながら検討することで、記述が具体的にどのような技法や表現を意味しているのかを明らかにし得たものとして国宝「応徳涅槃図」（平安時代・1086年）や国宝「阿弥陀三尊像」（南宋時代・12世紀）をあげることができる。また、国宝「普賢菩薩像」、国宝「扇面法華経冊子」やヴェネツィアにおけるティツィアーノ

「聖母被昇天祭壇画」の修理現場などに携わったことにより修理をめぐる言説の東西の比較、などの視点を得ることもできた。今後の展望としては、我が国に多く残る白描画像に奥書等として残された記録を東アジアにおける仏教絵画史の展開の中に取り入れ、記述する必要性が浮かび上がった。高岸は、2021年度末に、辻 惟雄、アン・ニシムラ・モース、高岸 輝 の監修による『ボストン美術館 日本美術総合調査図録』（中央公論美術出版）を刊行した。本書は平成3年（1991）から令和元年（2019）まで約30年にわたり行われた海外調査の成果であり、日本から絵画・彫刻・工芸の各分野の専門家およそ30名が派遣され、現地の研究者との共同によってコレクションの全貌が姿を現した。精確な調書に基づく作品解説は、この間の日本美術史における作品記述の進展を明示するものであると同時に、日本語・英語による美術史記述の共通点と差異を浮き彫りとする成果をもたらした。今後、他の在外日本美術コレクションについても同様の調査を展開しつつ、現地言語と日本語との比較による記述の重層化および明晰化を積極的に進めるべきであろう。

東洋美術史班では、板倉が日本に請求された東アジアの文物、特に絵画を中心に幾つかの視点から検証した。まず記録という行為自体についての考察は、「絵画研究における「写真」の利用 宋時代絵画の事例に注目して」（『ものの記憶 読み解き 伝え 遺す』東京文化財研究所 2021年）で写真という媒体の様態を考察し、改めて記録の意味を再考した。次に地域、時代ごとの鑑定システムの様態を明らかにすることは記述・記録の前提となるものであり、記述・記録の様相を理解するのに極めて有効であることは言うまでもない。「模倣か空想か、複製か贋作か—「蘇州片」をめぐる諸問題」（野田麻美編『鞆川図と蘭亭曲水宴図』勉誠出版 2023年）では、当該期間に進めた中国における書画鑑定システムに関する研究の総括である。

日本の鑑定システムの考察として、「藤田美術館所蔵の中国絵画」（『名画の殿堂 藤田美術館展 藤田傳三郎のまなざし』図録 奈良国立博物館 2021年）、「孫億と日本 久米美術館所蔵「花鳥図」を起点として」（『久米美術館所蔵 久米佳一郎 日本絵画コレクション目録』図録 久米美術館 2022年9月）などがある。東アジアにおける比較としては、朝鮮という視点は日中の対比を面的なものにする上で有効である。「朝鮮王朝前期の山水画 - 古典としての「北宋」と「元」」（『朝鮮王朝の絵画 - 山水・人物・花鳥』展図録 福岡市美術館 2023年9月）、「董其昌と朝鮮紙 素材への眼差し」（曾布川寛・宇佐美文理編『中国美術史の眺望 中国美術研究会論集』汲古書院 2023年）はその成果である。当該期間に担当部分が公刊された『アジア仏教美術論集』は単に地域で分けたのではなく、相互の関りを意識したものである。その最終巻における「請求仏画から見た中近世日本の仏画」（『アジア仏教美術論集 東アジア（アジアの中の日本）』（編・共著）中央公論美術出版 2023年）は、中近世日本において一部の仏画が日本製であるにも拘わらず中国製とされる現象について、遺された記録などから中近世の鑑定システムを明らかにし、改めて絵画生成の前提となるマトリクスを窺おうとした。

最終年に開催された「北宋書画精華」展は国内外から多くの参観者があり、高く評価されたものである。これ自体、もちろん北宋時代に焦点を当てた展覧会であったが、伝来の過程、それを示す記述・記録という視点を含めたものであり、シンポジウムにおいてもそうした観点からの発言がなされた。東西比較美術史という面では、李公麟「五馬図」の表現とルネサンス期の素描の一致が指摘され、その現象をめぐる議論がなされたことは大変刺激的であった。現在の美術史学研究、特に作品研究は、これまでと異なり、「作品誌」研究として伝来の過程にも注目するようになったが、それらを理解するための付属品等の公開については未公開のものも少なくない。そのため、作品調査を改めて行うことにより、より正確な議論が可能となる。今後、制作の「場」と受容の「場」の機能に注目し、作品それ自体だけではなく、双方の視点を意識して再考してい

くことを試みたい。

西洋美術史・比較美術史班では、主として古代および中近世の西洋美術史における記述についての多様な観点からの研究を展開するとともに、日本・東洋美術史班から適宜もたらされる情報や成果を取り込んでの比較研究を推進した。芳賀は、古代ギリシアの聖地の記述については、すでに本科研の準備段階で発表し、論文にまとめている（「古代ギリシアの聖地の記述と信仰の記憶」『文化交流研究』34, 2021, 25～32頁）。そのためこの3年間では個別の事例として、小アジア、エフェソスのアルテミス礼拝像に関する記述の検討と、そこに記述されていない代替像の可能性を考察した。また古代におけるイタリア半島の温泉地に関する記録と信仰に関する考古学的証拠を検討し、温泉の癒しの力や信仰は日本の温泉地とも比較可能であることを確認した。

中近世については、秋山が中心となり、造形物の記述に加えて、非物質的な幻視ないし夢の記述や、聖地景観についての言語のみならず画像による記述等に重点を置いて研究を展開した。西洋中近世における修道者や修道女の幻視についての記述を精査し、とりわけ造形物が登場する幻視を収集し、その傾向を浮かび上げようとして試みたところ、実在の聖像の簡潔な記述が含まれることが明らかとなった。同様の傾向は日本においても、例えば明恵に代表される日本の夢についての記述に看取され、比較美術史的にも有益な共通点が抽出された。また、神聖ローマ帝国の帝国宝物についての記述を精査し、三種の神器の記述との比較についての考察を国際研究集会で発表した。

さらに、古地図・絵地図・参詣図等を記述という枠組みの中で比較美術史的に考察した。中でもヘレフォード世界図は、その祭壇画状の体裁や抽象的聖地表現において、造形における記述の考察の上で一つの典型と言える。また、地図内の銘文等から、一種の絵解きが行われていた可能性もうかがわれ、日本の事例との比較に値することがわかった。他方、エツラウプのローマ巡礼用地図のような作例は、今日の路線図に近く、造形による記述の抽象化・簡略化という観点で、やはり日本の古地図との対照が可能である。そこで、比較美術史的観点から、ニューヨークやフィレンツェで研究集会を行い、ニューヨークにおいて那智参詣曼荼羅の絵解きを英語逐次通訳付きで、フィレンツェで熊野観心十界図の絵解きをイタリア語の逐次通訳付きで行った。前者は熊野三山の勧進行為の一環で行われた絵解きと熊野比丘尼の役割についての説明を伴っての絵解き実践であった。絵解き自体も作品および聖地景観の記述として捉えることができることが確認された。なお、この際、来場していたクリーブランド美術館学芸員からの示唆により、熊野比丘尼を新宮において管理していた妙心寺から40年前ほどに行方不明になっていた法燈国師像ならびにその母親像の所在が確認され、新宮市の文化財関係者に歓迎されている。フィレンツェにおける国際研究集会は「聖性の諸相 東西比較の試み」と題して、日伊双方の研究者が、英語、イタリア語、日本語により研究報告を行い、議論した。とりわけ、熊野観心十界図の絵解きは、イタリア人研究者の興味を惹起し、その多様な地獄表現が、ダンテの神曲およびそれに触発された中近世の造形作品と、共通する点を多々有することが論じられた。古地図は、大別して、地理的特徴を示した現代の地図に近いものと、鉄道路線図的に大胆な簡略化を行いつつも距離を明示したものに大別される。また、今日の地図と異なり、必ず南北が上下に表現されているわけではなく、使用されるコンテキストに応じて、東西南北のいずれもが自在に上に位置づけられることが珍しくない。中近世の地図を考えると、洋の東西を問わず、この点が重要であることが確認された。

本研究で展開したような、形象ならびに記述の概念を拡大しての広範な比較研究は、文化史研究としての広がりを用いると同時に、従来の美術史学における記述行為についての考察を相対化しつつ深化せしめるものであることが浮かび上がった。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計25件（うち査読付論文 9件 / うち国際共著 1件 / うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 板倉聖哲	4. 巻 1
2. 論文標題 「孫億と日本 久米美術館所蔵「花鳥図」を起点として」	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 『久米美術館所蔵久米佳一郎日本絵画コレクション目録』	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 板倉聖哲	4. 巻 1
2. 論文標題 董其昌と朝鮮紙 素材への眼差し	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 『曾布川寛先生記念論集（仮）』	6. 最初と最後の頁 入稿済
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 板倉聖哲	4. 巻 1
2. 論文標題 「一休宗純賛「苦行釈迦図」（京都・真珠庵）の図像的淵源」	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 『釈迦信仰と美術』（稲本泰正編）	6. 最初と最後の頁 入稿済
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 板倉聖哲	4. 巻 1519
2. 論文標題 解説「高麗時代・紺紙金字仏説観普賢菩薩行法経」「元時代・伝牧谿筆 白衣観音図」	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 国華	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 板倉聖哲	4. 巻 1520
2. 論文標題 解説「朝鮮王朝前期 宮女図」	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 国華	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 板倉聖哲	4. 巻 1525
2. 論文標題 解説「明・陶菴筆 乳虎図」	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 国華	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 板倉聖哲	4. 巻 1526
2. 論文標題 解説「清・丁應宗原画 西湖十景図」	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 国華	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 板倉聖哲	4. 巻 1527
2. 論文標題 解説「清・袁耀筆 秋山行旅図」	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 国華	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 増記隆介	4. 巻 1
2. 論文標題 「鳥獸戯画・蓮華王院宝蔵・正倉院」	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 『鳥獸戯画研究の最前線』	6. 最初と最後の頁 68-85
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 増記隆介	4. 巻 47
2. 論文標題 「後白河院時代の絵画と宝蔵」	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 『仏教文学』	6. 最初と最後の頁 131-144
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 増記隆介	4. 巻 1
2. 論文標題 「圓教寺常行堂仏後壁の来迎図」	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 『杉本博司 本歌取り - 日本文化の伝統と飛翔』	6. 最初と最後の頁 276-279
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 増記隆介	4. 巻 274
2. 論文標題 「呉越国の絵画と日本 - 『応現観音図』を中心に - 」	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 『アジア遊学』	6. 最初と最後の頁 276-292
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 増記隆介	4. 巻 39
2. 論文標題 「後堀河院がしたこと - 後白河院崩御後の『宝蔵絵』 - 」	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 『美術史論叢』	6. 最初と最後の頁 85-96
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 芳賀京子	4. 巻 1
2. 論文標題 「ローマ帝国における皇帝イメージの検閲・伝達・記憶」	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 『古代地中海世界と文化的記憶』(周藤芳幸編)	6. 最初と最後の頁 366-392
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 板倉聖哲	4. 巻 1
2. 論文標題 「模倣か空想か、贋作か複製か 「蘇州片」をめぐる諸問題」	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 『もう川図と蘭亭曲水宴図』(野田麻美編)	6. 最初と最後の頁 入稿済
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 秋山聡	4. 巻 1
2. 論文標題 夢ないし幻視における像の生動性についての比較美術史的考察	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 『聖性の物質性 - 人類学と美術史の交わる場所』	6. 最初と最後の頁 219-245
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -



1. 著者名 秋山聡	4. 巻 1
2. 論文標題 聖なるモノの来し方、行く末 - 教会宝物をめぐって	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 『宗教遺産テキスト学の創成』	6. 最初と最後の頁 379-395
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Akira AKIYAMA/Giuseppe Capriotti/Valentina Zivkovic	4. 巻 1
2. 論文標題 Introduction to Section 1 The Mystical Mind as a Divine Artist: Visions, Artistic Production, Creation of Images through Empathy	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 MOTION: TRANSFORMATION -- PROCEEDINGS OF THE 35TH WORLD CONGRESS OF ART HISTORY	6. 最初と最後の頁 17-21
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 増記隆介	4. 巻 1
2. 論文標題 「後堀川院の絵巻制作と蓮華王院宝蔵」	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『コレクションとアーカイブ 東アジア美術研究の可能性』	6. 最初と最後の頁 263-297
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kyoko Sengoku-Haga	4. 巻 1
2. 論文標題 Diffusion of Roman Imperial Portraits	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Transmission and Organization of Knowledge in the Ancient Mediterranean World, ed.by Y.Suto	6. 最初と最後の頁 87-104
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 芳賀京子	4. 巻 1
2. 論文標題 「《アルテミス・エフェシア》偶像に宿る聖性の継承と分与」	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 『聖性の物質性 - 人類学と美術史の交わる場所』	6. 最初と最後の頁 325-347
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 増記隆介	4. 巻 39
2. 論文標題 「後堀河院がしたこと 後白河院崩御後の『宝蔵絵』」	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 『美術史論叢』	6. 最初と最後の頁 85-96
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 増記隆介	4. 巻 1
2. 論文標題 「『応徳涅槃図』再考 原本の存在とその絵画史的位罫」	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 『釈迦信仰と美術』	6. 最初と最後の頁 523-564
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高岸輝	4. 巻 40
2. 論文標題 「高階隆兼論(一) 『看聞日記』所載の「ういのせう絵」「強力女絵」「香助絵」と『古今著聞集』説話の絵巻群」	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 『美術史論叢』	6. 最初と最後の頁 1-23
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 太田泉フロランス	4. 巻 21
2. 論文標題 「パネル型聖遺物容器の携帯性をめぐる二、三の考察 《リブレット》の技術的特徴を中心に」	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 『西洋美術研究』	6. 最初と最後の頁 124-135
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計29件 (うち招待講演 13件 / うち国際学会 12件)

1. 発表者名 Ryusuke MASUKI
2. 発表標題 “ The Conservation of Buddhist Painting in Heian-Period (794-1192) Japan ”
3. 学会等名 Symposium: Conservation Thinking in Japan, Funded by The Andrew W. Mellon Foundation, Bard Graduate Center, New York, U.S.A., (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Akira AKIYAMA
2. 発表標題 Invitation to Kumano
3. 学会等名 UTokyo New York Office Event: Invitation to Kumano, with Etoki Performance: A Case of Regional Cooperative Activities of the University of Tokyo, New York, UTokyo New York Office (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 芳賀京子
2. 発表標題 「2021年ソンマ・ヴェスヴィアーナ遺跡出土の大理石製少年像(トルソ)」
3. 学会等名 「火山噴火罹災地の文化・自然環境復元 2019 - 2022 」、東京大学教養学部
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 芳賀京子
2. 発表標題 「神像の複製と信仰 古代ギリシアの場合」
3. 学会等名 国際シンポジウム「宗教遺産をめぐる真正性 宗教遺産テキスト学の発展的展開」、名古屋大学（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 秋山聡
2. 発表標題 見えないものをいかに見せるか - 比較宗教美術史の観点から
3. 学会等名 国際シンポジウム「宗教遺産をめぐる真正性 宗教遺産テキスト学の発展的展開」、名古屋大学（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 増記隆介
2. 発表標題 「圓教寺常行堂仏後壁の「二十五菩薩来迎図」をめぐって」
3. 学会等名 「杉本博司 本歌取りー日本文化の伝承と飛翔」展記念講演会、姫路市立美術館（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 増記隆介
2. 発表標題 「普賢菩薩の絵画 - 美しきほとけへの祈り - 」
3. 学会等名 「信仰の美」展講演会、大倉集古館（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Akira AKIYAMA
2. 発表標題 Keynote Lecture I: Emperor's Body and regalia from comparative perspectives
3. 学会等名 Staging the Ruler's Body in Medieval Cultures: A Comparative Perspective, Online Graduate Workshop and International Conference, University of Fribourg, Switzerland (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 秋山聡
2. 発表標題 見えないものをいかに見せるか - 比較宗教美術史の観点から、
3. 学会等名 国際シンポジウム「宗教遺産をめぐる真正性 - 宗教遺産テキスト学の発展的展開 -」、名古屋大学(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Akira AKIYAMA
2. 発表標題 Invitation to Kumano
3. 学会等名 UTokyo New York Office Event: Invitation to Kumano with Etoki Performance: A Case of Regional Cooperation applying Humanities by University of Tokyo (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 高岸輝
2. 発表標題 「日本中世における顔を隠す表現とその意味 - 絵巻を素材として」
3. 学会等名 第21回文化資源学フォーラム「顔を隠す」(招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 増記隆介
2. 発表標題 「後白河院時代の絵画制作と宝蔵」
3. 学会等名 仏教文学会シンポジウム（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 増記隆介
2. 発表標題 「後白河院崩御後の蓮華王院宝蔵 宝蔵絵の去就をめぐる諸問題」
3. 学会等名 シンポジウム「宝物とそのいれもの - 収納と収蔵の比較美術史」
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 秋山聰
2. 発表標題 「宝物とそのいれもの」
3. 学会等名 シンポジウム「宝物とそのいれもの - 収納と収蔵の比較美術史」
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Kyoko Sengoku-Haga
2. 発表標題 Kenner than Coinnoisseurs' Eyes: Analysis and Experience of Ancient Art through Virtual Reality(VR)
3. 学会等名 JADH2021(The 11th Conference of Japanese Association for Digital Humanities), Digital Humanities and COVID-19 (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 秋山聡
2. 発表標題 「聖地の生成と変容」
3. 学会等名 東大人文熊野フォーラムin本郷『災いと救い - 聖地の生成と変容』
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 秋山聡
2. 発表標題 「聖地比較のすすめ - 人文知の活用による地域連携に向けて」
3. 学会等名 東大人文熊野フォーラムin羽黒「羽黒と熊野 聖地比較のこころみ」
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 秋山聡
2. 発表標題 「聖地と絵図 - 人文学が地域を繋ぐ」
3. 学会等名 東大人文熊野フォーラムin本郷「羽黒と熊野 : 聖地と絵図」
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Akira Akiyama
2. 発表標題 Invitation to International Kumano Studies
3. 学会等名 Dimensioni del Sacro tra Oriente e Occidente (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Matsuzaki Teruaki
2. 発表標題 Construction, Repair and Financing of the Sacred Site Kumano
3. 学会等名 Dimensioni del Sacro tra Oriente e Occidente (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Shigeo Yamamoto
2. 発表標題 Kumano Nuns and their Etoki of the Kumano Ten Worlds
3. 学会等名 Dimensioni del Sacro tra Oriente e Occidente (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Izumi Florence Ota
2. 発表標題 Comparative Studies on Pilgrimage Sites - Cases of Santiago de Compostela and Kumano
3. 学会等名 Dimensioni del Sacro tra Oriente e Occidente (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 増記隆介
2. 発表標題 「普賢菩薩の絵画 美しきほとけへの祈り」
3. 学会等名 「信仰の美」展覧会 (招待講演)
4. 発表年 2023年



1. 発表者名 増記隆介
2. 発表標題 「国宝『普賢菩薩像』令和の大修理を終えて」
3. 学会等名 東京国立博物館記念トークイベント（招待講演）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 芳賀京子
2. 発表標題 「古代ローマの温泉と信仰とテルマエ美術」
3. 学会等名 東大人文・熊野フォーラムin島原「山の信仰、キリシタン、温泉」
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 松崎照明
2. 発表標題 聖地と温泉の建築
3. 学会等名 東大人文・熊野フォーラムin島原「山の信仰、キリシタン、温泉」
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 秋山聡
2. 発表標題 「比較宗教美術史へのいざない」
3. 学会等名 東大人文・熊野フォーラムin島原「山の信仰、キリシタン、温泉」
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 高岸輝
2. 発表標題 「都鄙交流と縁起絵 『琴弾宮縁起絵』と讃岐・瀬戸内の中世絵画」
3. 学会等名 美術史から見た寺社縁起の展望 中央と地域の関係を注目して (招待講演)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 高岸輝
2. 発表標題 「絵画の画中画からひろがる中世屏風の世界」
3. 学会等名 中世やまと絵屏風の技法と主題から読み解く (招待講演)
4. 発表年 2024年

〔図書〕 計13件

1. 著者名 高岸輝	4. 発行年 2023年
2. 出版社 高松市歴史資料館	5. 総ページ数 56
3. 書名 万物流転 - 語られるイメージと時間	

1. 著者名 秋山聡 / 太田圭 / 速水盛康 / 太田泉フロランス / 大向一輝 / 藤原聡子	4. 発行年 2023年
2. 出版社 東京大学文学部	5. 総ページ数 51
3. 書名 文学部による地域連携の試み 人文学応用連携の促進を目指して	

1. 著者名 秋山聡 / 太田圭 / 速水盛康 / 太田泉フロランス / 大向一輝 / 藤原聡子	4. 発行年 2023年
2. 出版社 東京大学文学部	5. 総ページ数 51
3. 書名 『文学部による地域連携の試み 人文学応用連携の促進を目指して - 』	

1. 著者名 秋山 聡・田中正之	4. 発行年 2021年
2. 出版社 美術出版社	5. 総ページ数 432
3. 書名 美術出版ライブラリー「西洋美術史」	

1. 著者名 増記隆介 (担当pp.40-42, pp.98-128)	4. 発行年 2023年
2. 出版社 東京美術	5. 総ページ数 135
3. 書名 東京国立博物館編 『国宝普賢菩薩像 令和の大修理全記録』	

1. 著者名 板倉聖哲	4. 発行年 2023年
2. 出版社 勉成出版	5. 総ページ数 304
3. 書名 『もう川図と蘭亭曲水図』	

1. 著者名 板倉聖哲（一休宗純賛『苦行釈迦図』（京都・真珠庵）の図像的淵源）	4. 発行年 2023年
2. 出版社 思文閣出版	5. 総ページ数 640
3. 書名 『釈迦信仰と美術 作品解釈の新視点』	

1. 著者名 板倉聖哲（「『五馬図』のある北宋絵画史」）	4. 発行年 2023年
2. 出版社 根津美術館	5. 総ページ数 212
3. 書名 『北宋書画精華』	

1. 著者名 板倉聖哲（「董其昌と朝鮮紙 素材への眼差し」）	4. 発行年 2023年
2. 出版社 汲古書院	5. 総ページ数 360
3. 書名 『中国美術史への眺望』	

1. 著者名 板倉聖哲（「請来仏画から見た中近世日本の仏画」）	4. 発行年 2023年
2. 出版社 中央公論美術出版	5. 総ページ数 704
3. 書名 『アジア仏教美術論集 東アジアVII(アジアの中の日本)』	

1. 著者名 板倉聖哲（監修および「朝鮮王朝前期の山水画 古典としての「北宋」と「元」」）	4. 発行年 2023年
2. 出版社 福岡市美術館	5. 総ページ数 128
3. 書名 『朝鮮王朝の絵画 山水・人物・花鳥』	

1. 著者名 板倉聖哲（「文晁・北斎と中国絵画」）	4. 発行年 2023年
2. 出版社 栃木県立美術館	5. 総ページ数 177
3. 書名 『文晁と北斎 このふたり、ただものにあらず』	

1. 著者名 板倉聖哲（「常州草蟲天下奇 東アジアにおける毘陵草虫図の史的位置」）	4. 発行年 2023年
2. 出版社 サントリー美術館	5. 総ページ数 229
3. 書名 『虫めづる日本の人々』	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	板倉 聖哲  (Itakura Masaaki)  (00242074)	東京大学・東洋文化研究所・教授   (12601)	
研究分担者	増記 隆介  (Masuki Ryusuke)  (10723380)	東京大学・大学院人文社会系研究科(文学部)・准教授   (12601)	

## 6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	高岸 輝 (Takagishi Akira) (80416263)	東京大学・大学院人文社会系研究科(文学部)・教授  (12601)	
研究分担者	芳賀 京子 (Haga Kyoko) (80421840)	東京大学・大学院人文社会系研究科(文学部)・教授  (12601)	

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	松崎 照明 (Matsuzaki Teruaki)		比較美術史班
研究協力者	山本 殖生 (Yamamoto Shigeo)		比較美術史班
研究協力者	太田 泉フロランス (Ota Izumi Florence)		西洋美術史班・比較美術史班

## 7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計3件

国際研究集会 Invitation to Kumano with Etoki Performance	開催年 2023年～2023年
国際研究集会 「北宋書画精華」シンポジウム	開催年 2023年～2023年
国際研究集会 Dimensioni del sacro tra Oriente e Occidente: Convegno internazionale martedì 26 settembre 2023, Aula Magna della Scuola di Studi Umanistici e della Formazione, Università degli Studi di Firenze	開催年 2023年～2023年

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------